77-20RW89000120

TEAC

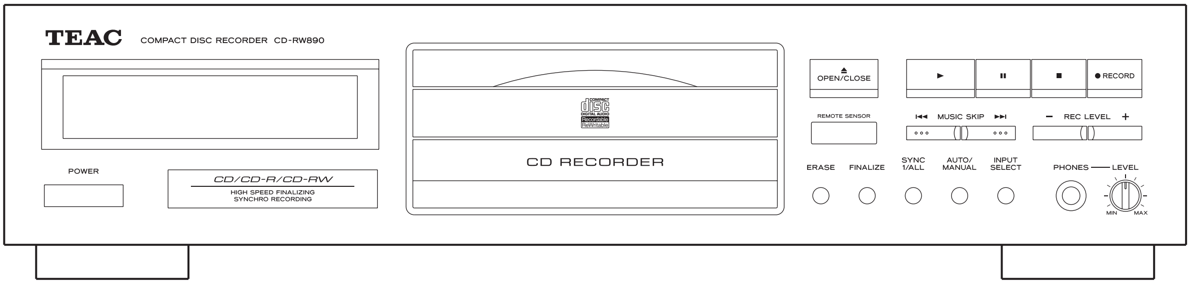
取扱説明書

CD-RW890

COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable ReWritable

CDレコーダー

ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。
末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



目　次

お使いになる前に 2
安全にお使いいただくために. 3

ディスクについて 6
接　続 8
リモコンの使い方 9
各部の名前とはたらき(本体とリモコン). 10

基本操作. 12
基本再生. 12
ディスプレーの切り換え 15
プログラム再生. 16
リピート再生 19
シャッフル再生. 20

録音について 20
録音するときの注意 21
録　音 21
シンクロ録音 25

ファイナライズ. 27
アンファイナライズ(CD-RWのみ). 28
最後の曲を消去する(CD-RWのみ). 29
全ての曲を消去する(CD-RWのみ). 30

困ったときは 32
メッセージ一覧. 33
仕　様 34

保証とアフターサービス 35

お使いになる前に

付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店またはAVお客様相談室(裏表紙に記載)にご連絡ください。

リモコン（RC-1275）×1
リモコン用乾電池（単3）×2本
RCAオーディオケーブル ×2本
光ケーブル ×1本
取扱説明書(本書)×1
簡単録音ガイド×1
保証書 ×1

使用上の注意

- ディスクが内部に入っているときに、本機を傾けないでください。故障の原因になります。
- 再生中はディスクが高速で回転していますので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。
- 本機を移動したり、引っ越しなどで梱包する場合は、必ずディスクを取り出してください。ディスクを内部に入れたままの移動は、故障の原因となります。
- 本機がオフ状態のときでも、待機電力が消費されます。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたまま近くにあるテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。変色や変形、故障の原因となります。

お手入れ

表面が汚れたときは乾いた柔らかい布で拭いてください。ひどい汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

警告	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。**
電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは。** **機器の内部に異物や水などが入ったときは。** **この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。** すぐに機器本体の電源をオフにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に修理をご依頼ください。
禁止	**電源コードを傷つけない。** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。** コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。
	電源プラグにほこりをためない。 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない。 この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない。 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがない。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。 火災・感電の原因となります。
分解禁止	**この機器のキャビネットは絶対に外さない。** キャビネットを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご依頼ください。
	この機器を改造しない。 火災・感電の原因となります。

⚠ 警告
以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

強制	**この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。** **ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。** 内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠ 注意
以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

強制	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。** **また、接続は指定のケーブルを使用する。** それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。
	電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない。** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源コードを熱器具に近付けない。 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源をオフにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す。** コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電の原因となることがあります。

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの原因となりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

注意	乾電池に関する注意
禁止	**乾電池は絶対に充電しない。** 破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

注意	乾電池に関する注意
強制	**電池を入れるときは、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる。** 間違えると破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく。 液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。
禁止	**指定以外の電池は使用しない。** **新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない。** 破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
分解禁止	**金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。** ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。
	分解しない。 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

ディスクについて

本機で再生できるディスク

「COMPACT disc DIGITAL AUDIO」ロゴマークのあるCD

音楽CDフォーマットで正しく記録され、ファイナライズされたCD-RおよびCD-RW。

本機は上記のディスクをアダプターなしで再生することができます。上記以外のディスクは再生できません。

⚠ **上記以外のディスクを再生すると、大音量のノイズを発生してスピーカーを破損したり、聴覚を傷付ける恐れがあります。上記以外のディスクは絶対に再生しないでください。**

- コピーコントロールCDやDual Discなど、CDの標準規格に準拠していない特殊なディスクは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

本機で録音できるディスク

音楽用CD-RおよびCD-RW

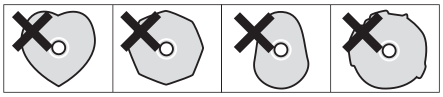
CD-R/CD-RWについて

本機は音楽CDフォーマット(CD-DA)で記録されたCD-R/CD-RWを再生することができます。

- CDレコーダーで作成したディスクは、忘れずにファイナライズしてください。
- ディスクの品質、録音の状態によっては、再生できないことがあります。詳しくはお手持ちの機器の説明書をお読みください。
- CD-RやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、直接ディスクの発売元にお問い合わせください。ください。

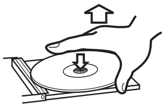
使用上の注意

- ヒビが入ったディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。
- ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷つけて再生ができなくなる場合があります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。
- ハート形や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

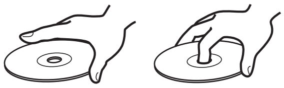


ディスクの取扱い

- ディスクは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。
- 信号記録面(レーベルがない面)に傷、指紋、汚れなどがあると、再生時にエラーの原因となることがありますので、お取り扱いにはご注意ください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。



取り出し方



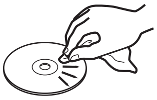
持ち方

ディスクの保存について

- 使用後のディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。ディスクが変形・変質して、再生できなくなるおそれがあります。
- CD-R/CD-RWは、通常のCDと比べて熱や紫外線の影響を受けやすいため、直射日光が当たる場所や熱を発生する器具の近くなどに長時間放置しないでください。
- ディスクの汚れは音飛びや音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。

お手入れ

- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。

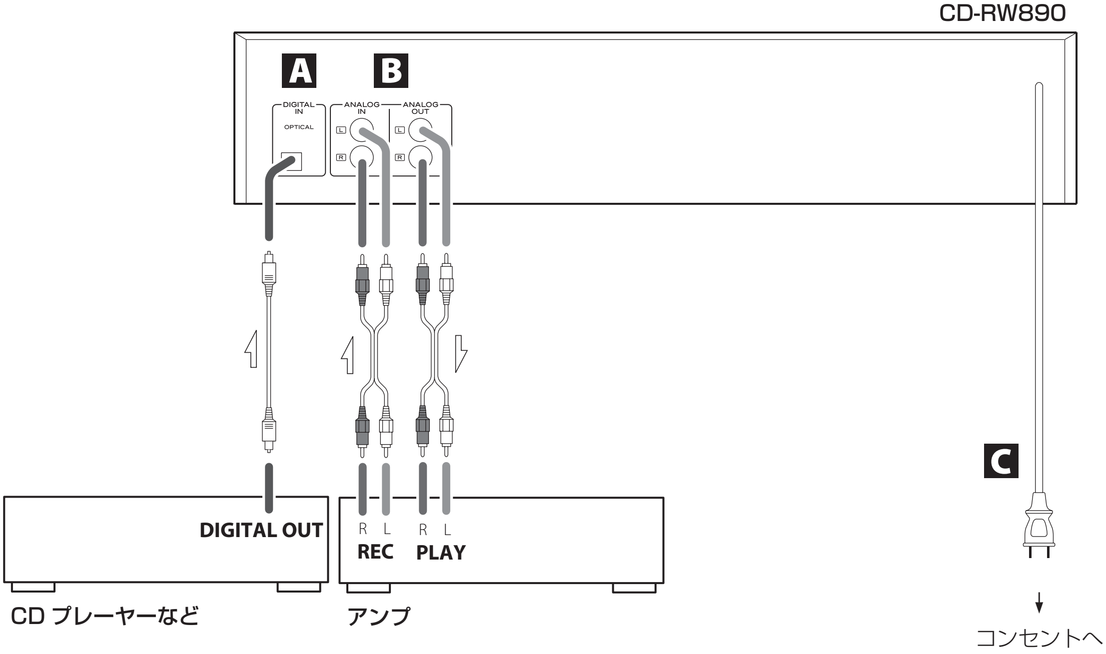


- レコードクリーナー、帯電防止剤、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

接　続

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。



A デジタル音声入力端子 [DIGITAL IN]

光ケーブルを使って、CDプレーヤー、MDデッキなどのデジタル出力端子(DIGITAL OUT)と接続します。

- 光デジタルケーブルを接続する際は、接続端子のキャップをはずしてください。使用しないときはキャップをつけておいてください。

B アナログ音声入出力端子 [ANALOG IN/OUT]

アナログで録音/再生するときに使用します。
アンプやカセットデッキなどの音声入出力端子と接続してください。

- アンプ側にCD-R用の入出力端子がない場合は、MD、TAPE用の端子に接続してください。
- オーディオケーブルは、白のピンプラグを白(L)端子と、赤のピンプラグを赤(R)端子と接続してください。

- プラグはしっかりと差し込んでください。また、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質の低下や雑音の原因になります。

C 電源プラグ

電源プラグを交流100Vの電源コンセントに差し込んでください。

⚠ **交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。**
電源の抜き差しは、必ずプラグを持って行ってください。
長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

リモコンの使い方

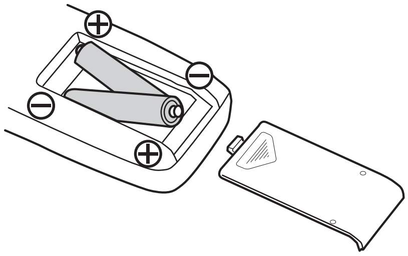
使用上の注意

⚠ **乾電池を誤って使用すると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。5ページの注意をよく読んでお使いください。**

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、5メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- 本体のリモコン受光部に日光や照明があたると、リモコン操作ができないことがあります。その場合は本機を移動してみてください。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

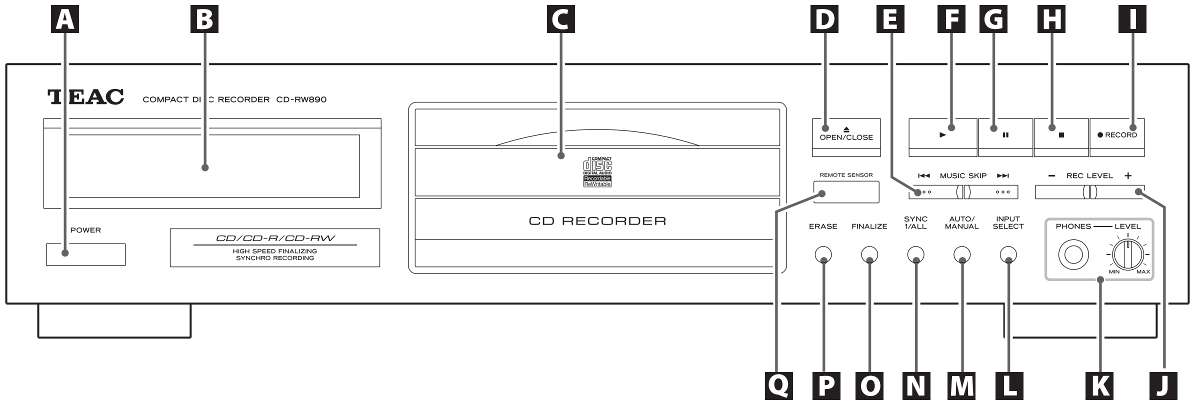
リモコン裏面のフタを外し、ケースの⊕と⊖の表示に合わせて乾電池(単3形)2本を入れて、フタを閉めてください。

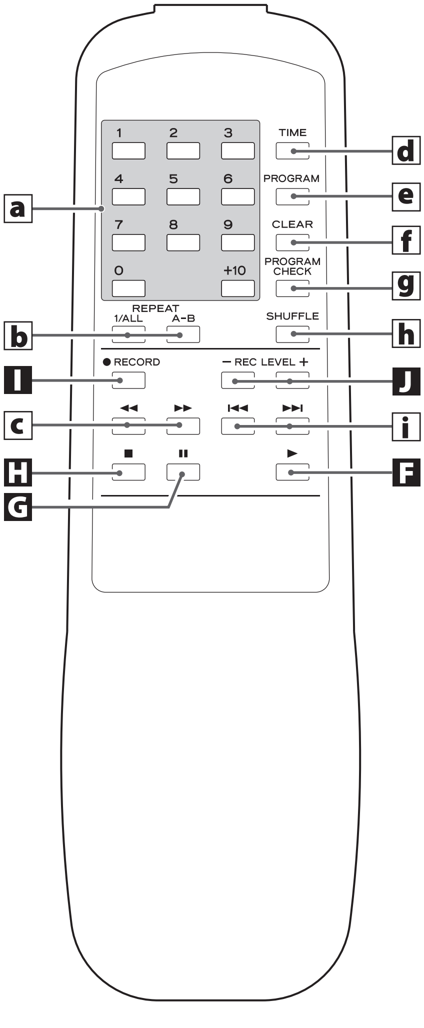


電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作ボタンを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。
使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村指定の廃棄方法に従って捨ててください。

各部の名前とはたらき(本体とリモコン)





本体とリモコン

A 電源ボタン [POWER]

電源のオンとオフを切り換えます。

B ディスプレー

ディスクの総曲数や再生時間などが表示されます。

C ディスクトレー

D 開/閉ボタン [OPEN/CLOSE ⏏]

ディスクトレーを開閉します。

E スキップボタン [MUSIC SKIP ⏮/⏭]

前または次の曲にスキップします。CDの再生中に押したままでいると、早送り/早戻しできます。(14ページ)

F 再生ボタン [▶]

再生、録音、ファイナライズ、アンファイナライズ、または消去を開始します。

G 一時停止ボタン [⏸]

再生または録音を一時停止します。

H 停止ボタン [■]

再生または録音を停止します。

I 録音ボタン [RECORD]

録音待機状態になります。(20〜26ページ)
録音中にこのボタンを押すと、曲番を付けることができます。(25ページ)

J アナログ録音レベルボタン [REC LEVEL]

アナログ音声入力の録音レベルを調節します。(23ページ)

K ヘッドホン端子[PHONES]/ヘッドホン用音量調節つまみ[LEVEL]

ヘッドホンをお使いになるときは、まず音量を下げてからヘッドホンプラグ(ステレオ標準プラグ)をヘッドホン端子(PHONES)に差し込み、徐々に音量を調節してください。ヘッドホンプラグを差し込むとき、および電源のオンとオフを切り換えるときは、ヘッドホンを外してください。ノイズが発生することがあります。

L 入力切換ボタン [INPUT SELECTOR]

入力を切り換えます。(21ページ)

M オート/マニュアルボタン [AUTO/MANUAL]

録音するときの曲番の付け方を切り換えます。(22ページ)

N シンクロ録音ボタン [SYNC 1/ALL]

シンクロ録音のモード(一曲または全曲)を切り換えます。(25、26ページ)

O ファイナライズボタン [FINALIZE]

録音したCD-R/CD-RWをファイナライズするときに使用します。(27ページ)

P 消去ボタン [ERASE]

CD-RWに録音した曲を消去またはディスクをアンファイナライズするときに使用します。(28、29ページ)

Q リモコン受光部 [REMOTE SENSOR]

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をリモコン受光部に向けて操作してください。

リモコンのみ

a 数字ボタン

選曲などに使用します。(14、16、17ページ)

b リピートボタン [REPEAT]

リピート再生のモードを切り換えます。(19ページ)

c サーチボタン [◀◀/▶▶]

再生中にサーチボタンを押したままでいると、早送り/早戻しができます。(14ページ)

d タイムボタン [TIME]

ディスプレーの表示を切り換えます。(15ページ)

e プログラムボタン [PROGRAM]

プログラム再生するときに使用します。(16、17ページ)

f クリアボタン [CLEAR]

プログラムした曲を削除します。(18ページ)

g プログラムチェックボタン [PROGRAM CHECK]

プログラムされた内容の確認に使用します。(17、18ページ)

h シャッフルボタン [SHUFFLE]

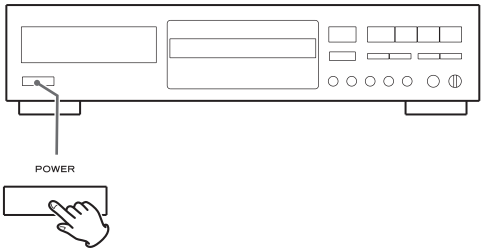
CDをシャッフル再生するときに使用します。(20ページ)

i スキップボタン [|◀◀/▶▶|]

前または次の曲にスキップします。(14ページ)

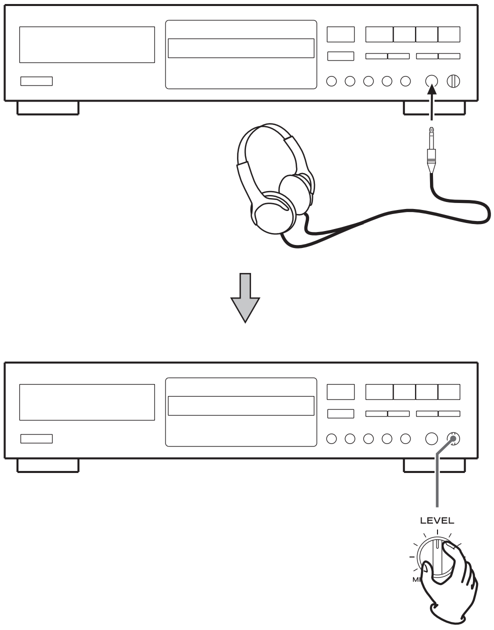
基本操作

電源を入れる



電源ボタン(POWER)を押して、電源をオンにします。

ヘッドホンを使用する

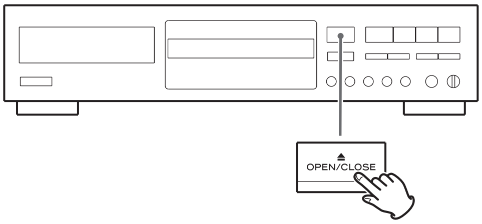


ヘッドホンをお使いになるときは、まず音量を下げてからヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込み、ヘッドホン音量つまみ(LEVEL)で音量を調節してください。

⚠ **ヘッドホンプラグが差し込まれても、オーディオ出力から音は出力されます。**
電源のオンとオフを切り換えるときは、ヘッドホンを外してください。ノイズが発生することがあります。

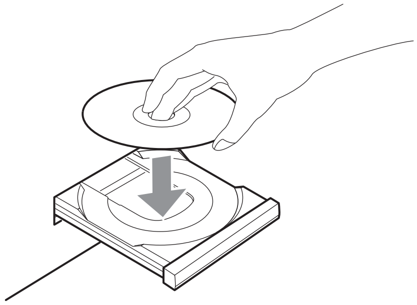
基本再生

1 開/閉ボタン(OPEN/CLOSE ▲)を押す。



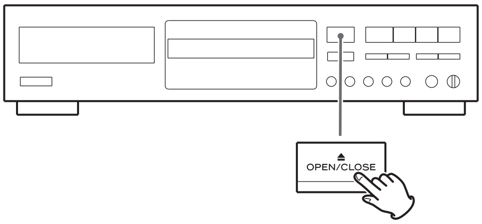
ディスクトレーが手前に出ます。

2 ディスクのレーベル面を上にしてトレーの中央にのせる。



- ディスクが中央のガイドから外れた状態でトレーを閉じると、ディスクが中で引っかかりトレーが開かなくなることがありますので、ディスクは必ずトレーの中央のガイドにしっかり合わせて置いてください。

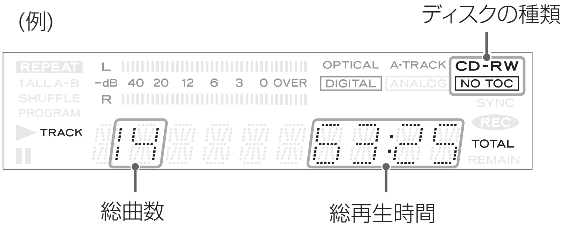
3 開/閉ボタン(OPEN/CLOSE ▲)を押す。



ディスクトレーが閉まります。指を挟まないようにご注意ください。

- ディスクの読み込みには多少時間がかかります。ディスクの読み込み中は、ボタンを押しても機能しませんので、ディスプレーに総曲数と総再生時間が表示されるまでお待ちください。

(例)



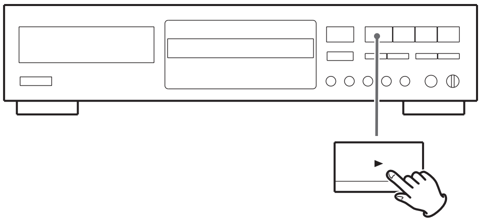
● 読み込まれたディスクの種類がディスプレーに表示されます。

CD：市販の音楽用CD
CD-R：ファイナライズ済みのCD-R
CD-RW：ファイナライズ済みのCD-RW
CD-R NO TOC ： ファイナライズされていないCD-R
CD-RW NO TOC ： ファイナライズされていないCD-RW
表示なし：内容が検知できないディスク

● 音楽用のディスク以外は、内容を検知することがありますが、再生はしません。

● ディスクがセットされていないときは、「NO DISC」が表示されます。

4 再生ボタン(►)を押す。

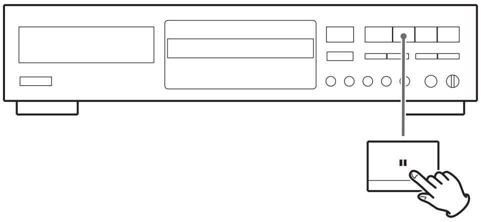


1曲目から再生が始まります。

● ディスクトレーを閉めずに再生ボタン(►)を押した場合、自動的にトレーを閉めて再生を始めます。

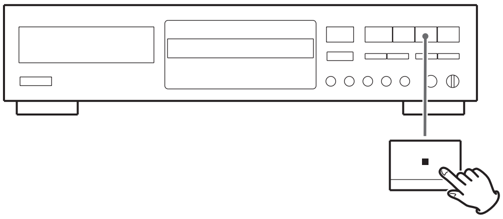
● ライブアルバムのような連続した音楽では、曲番が替わる際に、音が途切れて再生される場合があります。

再生を一時停止する



一時停止ボタン(❚❚)を押すと再生が一時停止します。再生ボタン(►)か一時停止ボタン(❚❚)を押すと、再び再生が始まります。

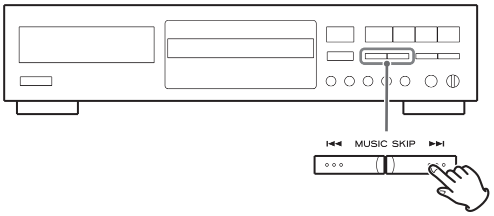
再生を停止する



停止ボタン(■)を押すと再生が停止します。

基本再生(続き)

曲をスキップする



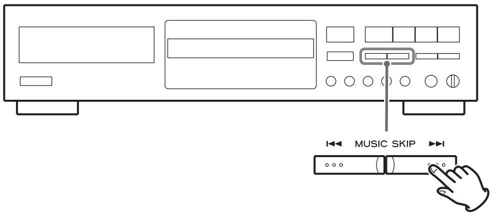
再生中にスキップボタン(I◀◀ / ▶▶I)を押すと、前または次の曲にスキップします。希望する曲になるまで、続けて押してください。
リモコンのスキップボタン(I◀◀ / ▶▶I)を押し続けると連続してスキップできます。
選択された曲の始めから再生を始めます。

停止中は、I◀◀ ◀◀または▶▶ ▶▶Iをくり返し押して希望の曲番を選んだあと、再生ボタン(▶)を押すと再生が始まります。

● 再生中は、I◀◀を1回押すと再生中の曲の始めに戻ります。それより前の曲を再生したいときは、I◀◀を続けて押してください。

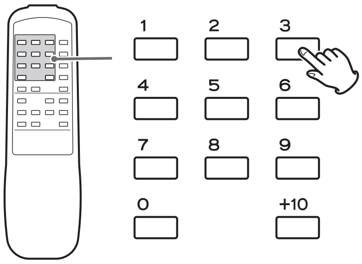
● プログラム再生(22ページ)中は、プログラム中の前または次の曲にスキップします。

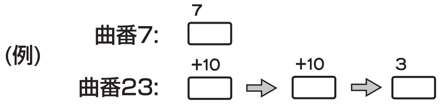
早送り/早戻しする



再生中にスキップボタン(I◀◀ / ▶▶I)を押したままでいると、早送り/早戻しができます。指をはなすと、そこから再生が始まります。
リモコンでは、サーチボタン(◀◀/▶▶)を使用します。

数字ボタンで曲番を選んで再生する





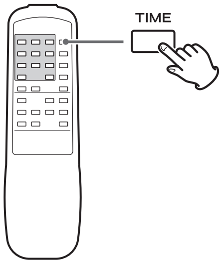
再生中または停止中に、数字ボタンを押して曲番を選んで再生できます。

選んだ曲番が自動的に再生されます。

● 一時停止中に操作すると、選んだ曲の頭で一時停止状態になります。

● プログラム再生(16ページ)中、またはシャッフル再生(20ページ)中は数字ボタンでの選曲はできません。

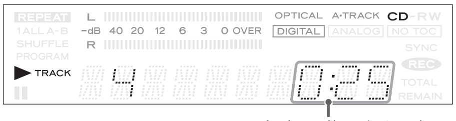
ディスプレーの切り換え



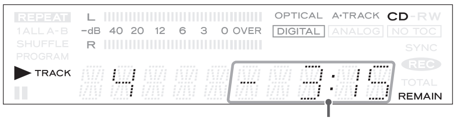
CDの再生中、録音中または録音待機中にリモコンのタイムボタン(TIME)を押すと、ディスプレーの表示が切り換わります。

CD/CD-R/CD-RW(再生中)

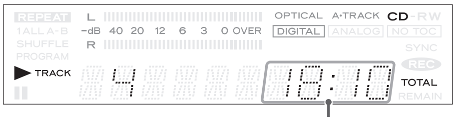
(例)



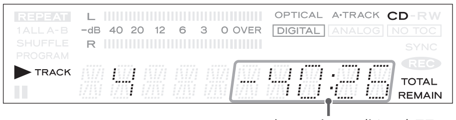
再生中の曲の経過時間



再生中の曲の残り時間



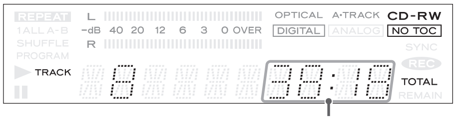
ディスクの経過時間



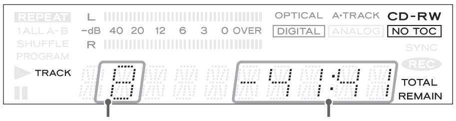
ディスクの残り時間

停止中(録音可能なディスク)

(例)



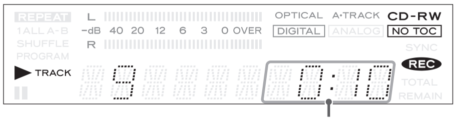
総再生時間



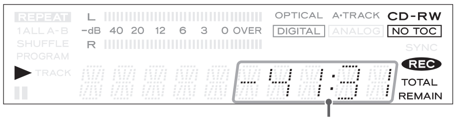
総曲数　　ディスクの録音可能時間

録音中/録音待機中

(例)



録音中の曲の経過時間



ディスクの録音可能時間

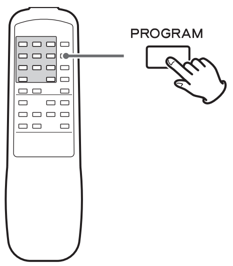
プログラム再生

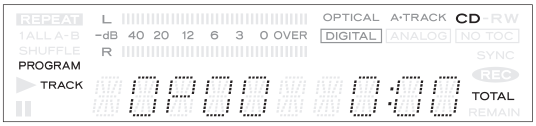
再生したい順番に32曲までプログラムすることができます。

● プログラムする前に、ディスクをセットしておいてください。

● ファイナライズされていないディスクは、プログラム再生できません。

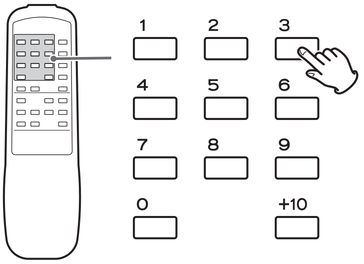
1 停止中にプログラムボタン(PROGRAM)を押す。

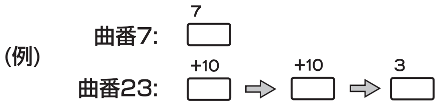




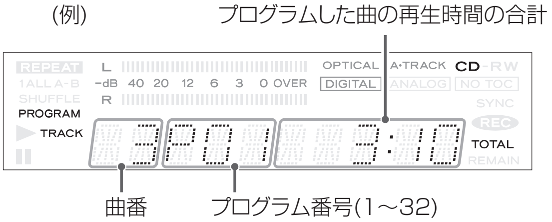
プログラムインジケーター (PROGRAM)が点滅し、「0P00」が表示されます。

2 数字ボタンを使って、プログラムする曲を選ぶ。





数字ボタンを押すとその曲がプログラムされます。複数の曲をプログラムするときは、つづけて数字ボタンを押してください。



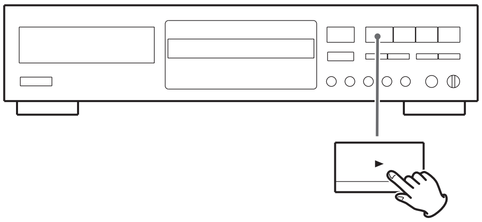
スキップボタン(⏮/⏭)とプログラムボタン(PROGRAM)を使用して選曲することも出来ます。
スキップボタン(⏮/⏭)で選曲したあと、プログラムボタン(PROGRAM)を押してください。複数の曲をプログラムするときは、この操作を繰り返してください。

● 間違えてプログラムした場合、クリアボタン(CLEAR)を押すと最後にプログラムした曲のみ取り消すことができます。

● プログラムを中止したいときは、停止ボタン(■)を押してください。プログラムインジケーター(PROGRAM)が点滅から点灯に変わります。
もう一度プログラムボタン(PROGARAM)を押すと、プログラムインジケーター (PROGRAM)が再び点滅し、中止したところから続けてプログラムできます。

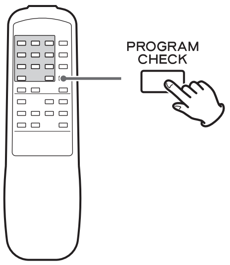
● ディスクに存在しない曲番をプログラムすることはできません。

3 プログラムが終わったら、再生ボタン(►)を押す。



プログラムインジケーター (PROGRAM)が点滅から点灯に変わり、プログラム再生が始まります。

プログラムの順番をチェックする

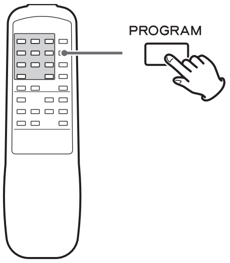


停止中にプログラムチェックボタン(PROGRAM CHECK)を押すたびに、プログラム番号とプログラムした曲番が順番に表示されます。

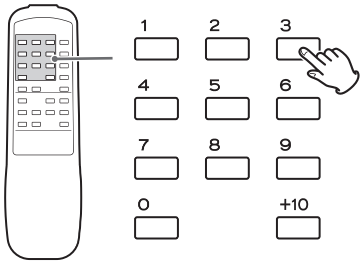
- プログラムインジケーターが点滅中は使えません。

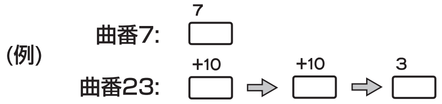
プログラムの最後に曲を追加する

1 停止中にプログラムボタン(PROGRAM)を押す。



2 数字ボタンで曲番を選ぶ。

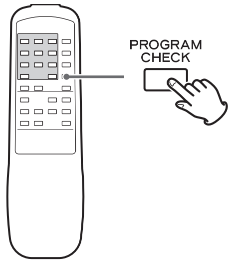




選択した曲がプログラムの最後に追加されます。

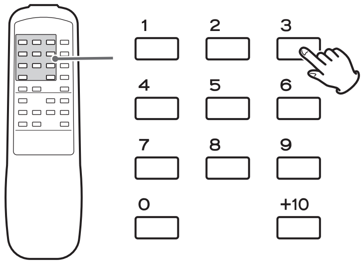
プログラムの一部を書き換える

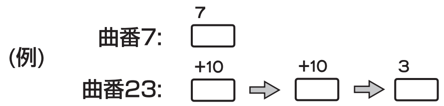
1 停止中に書き換えたいプログラム番号が表示されるまでプログラムチェックボタン(PROGRAM CHECK)を繰り返し押す。



2 プログラムボタンを押す。

3 数字ボタンで曲番を選ぶ。



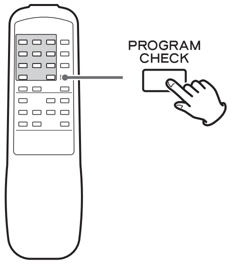


選択した曲に書き換えられます。

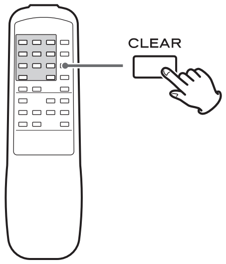
プログラム再生(続き)

プログラムの一部を取り消す

1 停止中にプログラムチェックボタン(PROGRAM CHECK)を繰り返し押して、取り消したいプログラム番号を表示させる。

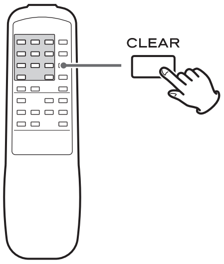


2 クリアボタン(CLEAR)を押す。



選択した曲がプログラムから取り消され、それよりあとに登録されていた曲のプログラム番号が繰り上がります。

全てのプログラム内容を消去する

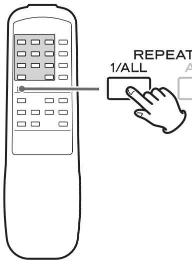


停止中にクリアボタン(CLEAR)を約2秒以上押すと、プログラム内容は全て消去されます。

以下のボタンを押した場合も、プログラム内容は全て消去されます。

開/閉ボタン(OPEN/CLOSE ⏏)
電源ボタン(POWER)

リピート再生



リピートボタン(REPEAT)を押すたびに、リピート再生のモードが変わります。

→ REPEAT ALL → REPEAT 1 →
(オフ)

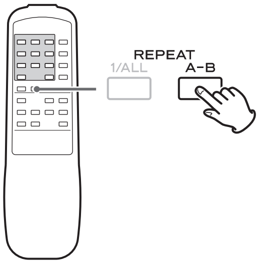
REPEAT ALL(全曲リピート)
再生中のディスクの全曲をくり返し再生します。

REPEAT 1(1曲リピート)
再生中の曲をくり返し再生します。リピート再生中にスキップ(⏮/⏭)を押して他の曲を選ぶと、その曲をくり返し再生します。

停止中は、リピートボタン(REPEAT)を2回押してからスキップボタン(⏮/⏭)で曲を選び、再生ボタン(▶)を押すと、1曲リピート再生を始めます。

- ファイナライズされていないディスクは、全曲/1曲リピート再生できません。
- 以下のボタンを押すと、全曲/1曲リピート再生は解除されます。

  開/閉ボタン(OPEN/CLOSE ⏏)
  電源ボタン(POWER)
- シャッフル再生中は、1曲リピートは選べません。
- 全曲/1曲リピート再生中は、A-Bリピート再生できません。



REPEAT A-B(A-Bリピート)
ある一曲の中の特定の部分を繰り返し再生することができます。

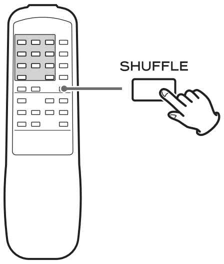
CDを再生し、繰り返しを始めたい部分(A点)になったらA-Bボタン(A-B)を押します。
"REPEAT A-"が点滅します。

終了したい部分(B点)でもう一度A-Bボタンを押すと、指定した部分(A-B)が繰り返し再生されます。

- A点とB点の間は10秒以上必要です。
- ファイナライズされていないディスクは、A-Bリピート再生をすることはできません。
- A点を指定したあと、B点まで早送り(サーチ)することができます。
- A-Bリピート再生中は、スキップボタン(⏮/⏭)は使用できません。
- プログラム再生中、シャッフル再生中は、A-Bリピート再生できません。
- A-Bリピート再生中は、シャッフル再生できません。
- 全曲/1曲リピート再生中は、A-Bリピート再生できません。
- 以下のボタンを押すと、A-Bリピート再生は解除されます。

  A-Bボタン(A-B)
  停止ボタン(■)
  開/閉ボタン(OPEN/CLOSE ⏏)
  電源ボタン(POWER)

シャッフル再生



再生中にシャッフルボタン(SHUFFLE)を押すと、ディスクの全曲をランダムに再生します。

停止中は、シャッフルボタン(SHUFFLE)を押してから再生ボタン(▶)を押してください。

全曲のシャッフル再生が終わると、シャッフル再生モードを解除して、再生を停止します。

- シャッフル再生中に ▶▶| ボタンを押すと、次の曲がランダムに選択されます。|◀◀ ボタンを押すと、再生中の曲の頭に戻ります。シャッフル再生中は、再生が終わった曲には戻れません。
- プログラム再生中およびA-Bリピート再生中はシャッフル再生できません。
- シャッフル再生中は、A-Bリピート再生できません。
- ファイナライズされていないディスクは、シャッフル再生できません。
- 以下のボタンを押すとシャッフル再生は解除されます。
  開/閉ボタン(OPEN/CLOSE ⏏)
  電源ボタン(POWER)
  停止中にシャッフルボタン(SHUFFLE)を押した場合
- 1曲リピート再生中にシャッフルボタン(SHUFFLE)を押すと、ディスクの全曲をシャッフル再生します。

録音について

CD-RとCD-RW

CD-Rディスクには一度だけしか録音できません。録音した曲を消去することもできません。ただし、ディスクの録音可能時間が残っている場合は、追加録音することができます。録音が終わったCD-Rをファイナライズ(27ページ)すると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります。(ただし、一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります)

CD-RWディスクの場合は、録音可能時間がいっぱいになっても、録音した曲を消去すればくり返し使用することができます。ただし消去できるのは、全ての曲、または最後に録音した曲だけです。途中の曲だけを消去することはできません。

CD-RWは、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

オートサンプリングレートコンバーター

一般のデジタルオーディオには、次の3種類のサンプリング周波数が使われています。

48kHz、44.1kHz、32kHz

CS/BS放送やDATなど、CDと異なるサンプリング周波数のソースや、ピッチコントロールのかかったデジタル信号が入力された場合、本機はそれぞれのサンプリング周波数を44.1kHzに自動変換して録音します。これにより、サンプリング周波数が32kHz〜48kHzのソースを、切り換え操作なしに高音質なデジタル信号のまま録音することができます。

デジタル録音するときのルール

シリアルコピーマネージメントシステム

本機は、シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)の規格に準拠したデジタルオーディオ機器です。この規格は、各種デジタルオーディオ機器の間で、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音すること(コピー)」を「1世代まで」と規制したものです。以下の原則があります。

「CD、MDなど市販のデジタル音楽ソフト」や、「アナログレコードやFM放送などをデジタル録音したもの」のコピーはできますが、コピーのコピーはできません。

録音するときの注意

● CDの規格により、99曲までしか録音できません。100曲目を録音しようとすると、自動的に停止します。

● 10秒以下の曲は録音できません。

● 録音を開始してから10秒以内に停止ボタン(■)または一時停止ボタン(❚❚)を押した場合は、10秒になってから停止します。その間は無音録音状態になります。

● 録音を停止すると、「PMA WRITE」が数秒間点滅します。録音中および「PMA WRITE」の点滅中は、電源を切ったり、本機を揺らしたりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。

● 録音の途中でディスクの録音可能時間が0になったとき、自動的に停止します。

● 途中まで録音してあるディスクを入れた場合は、録音済みの部分の終わりから続けて録音されます。

● ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときは、アンファイナライズしてください。(28ページ)

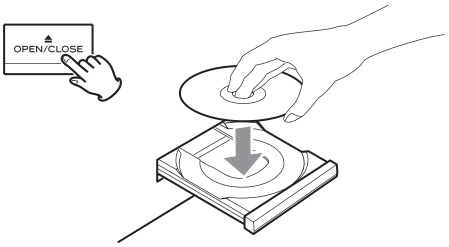
● オートトラック機能を使う場合、本機は設定したレベルに従って曲を区切ります。そのため、冒頭や曲間に無音部分のあるソースを録音すると、1曲あたりの長さ(再生時間)が一致しないことがあります。

● ライブアルバムのような連続した音楽では、曲番をつける際に、音が途切れて録音されます。

● 本機で録音したディスクを他のプレーヤーで再生した場合、トラック切り替わりの際に小さなノイズが発生することがあります。

録　音

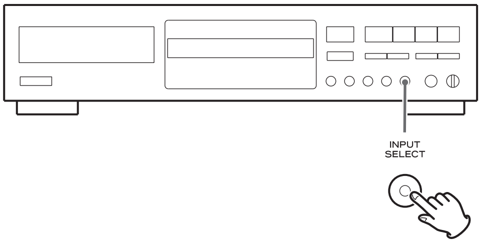
1 録音用のCD-RまたはCD-RWをセットする。



開/閉ボタン(OPEN/CLOSE ⏏)を押すとディスクトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてから、開/閉ボタン(⏏)を押してトレーを閉めてください。

ディスプレーの「NO TOC」と「CD-R(またはCD-RW)」インジケーターが点灯していることを確認してください。点灯していない場合は録音できません。

2 入力切換ボタン(INPUT SELECTOR)を押して録音するソースを選ぶ。



INPUT SELECTORボタン(INPUT SELECT)を押すたびに、以下のように変わります。

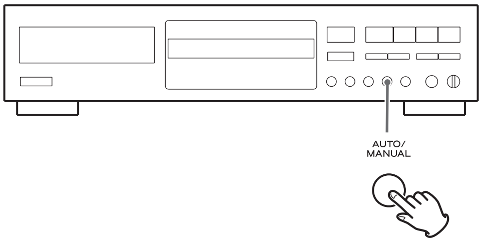
DIGITAL(デジタル音声入力)：
光ケーブルでDIGITAL IN (OPTICAL)に接続した機器から録音するとき

ANALOG(アナログ音声入力)：
LINE INに接続した機器から録音するとき

● 録音中は入力切換えできません。

次のページに続きます ➡

3 オート/マニュアルボタン(AUTO/MANUAL)を使って、曲番の付け方を選ぶ。



オート/マニュアルボタン(AUTO/MANUAL)を1回押すと、オートトラックのインクリメントレベルの現在の設定が表示されます。他の設定を選ぶ場合は、オート/マニュアルボタン(AUTO/MANUAL)をくり返し押してください。

→ S-LVL -60 → S-LVL -50 → S-LVL -40 → S-LVL -30 → MANUAL →

- 2秒経つと元の表示に戻ります。

S-LVL-60/50/40/30(曲番が自動的に付きます)
オートトラックがオンになり、ディスプレーに「A-TRACK」が表示されます。数字はインクリメントレベルを表します。
録音中に自動的に曲番が付きます。デジタル音声入力で曲の変わり目を検出した場合や、アナログ音声入力で3秒以上続けて無音状態(インクリメントレベルで設定したレベル以下)になったあとに次の曲が始まった場合(音がインクリメントレベル*より大きくなったとき)に、自動的に曲番を更新します。

*インクリメントレベル
「外部機器からアナログ音声入力で録音する際にオートトラックで曲番を付けたいとき」や、「CD、MD、DATなどのデジタルソースをシンクロ録音(25ページ)するとき」に、「無音状態」として検出するための音のレベルです。
この取扱説明書では、録音するソースのレベルが設定したインクリメントレベルの値より低い状態のことを、無音状態と呼びます。
選択できる数値は、−60,−50,−40,−30dBです。

MANUAL(曲番は自動的に付きません)
マニュアル(MANUAL)にすると、自動では曲番はつきません。手動で曲番をつける場合は録音ボタン(RECORED)を押してください。(25ページ)

- デジタル音声入力、アナログ音声入力のそれぞれに設定することができます。
  電源を入れたときに入力切替がデジタルの場合は−60dBに、アナログの場合は− 50dBになっています。

- 電源を切るまでは設定が保持されてます。

- CDをデジタル音声入力で録音する場合は、CDのデジタル信号に従って曲番を付けますので、通常はインクリメントレベルを変更する必要はありません。

- デジタル録音する場合、デジタルソースの再生機によってはオートトラックをオンにしても曲番が付かないことがあります。その場合は手動で曲番を付けてください。(25ページ)

- デジタル放送など、トラック番号の付いていないソースをデジタル音声入力で録音する場合、オートトラックをオンにしても曲番は付きません。録音中に曲番を付けたいところで録音ボタン(RECORD)を押して、曲番を付けてください。

- クラシックなど曲の初めや曲間に無音部分のあるソースをアナログ音声入力で録音する場合、オートトラックをオンにしてもうまく曲番を付けられないことがあります。その場合はオートトラックをオフにして、録音中に曲番を付けたいところで録音ボタン(RECORD)を押して曲番を付けてください。

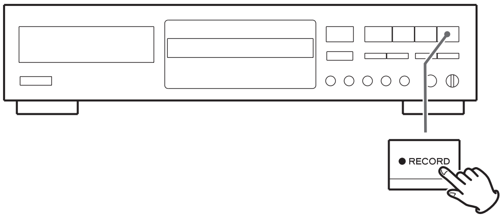
- レコードなどで時々大きな雑音があるソースでは、余分に曲番がつく場合があります。

- 録音中はオート/マニュアルボタン(AUTO/MANUAL)は使用できません。

曲番がうまく付かない場合
雑音のあるソースをアナログ音声入力で録音するときに、インクリメントレベルをその雑音より下に設定してしまうと、曲番が付かないことがあります。その場合はインクリメントレベルを高くしてください。

雑音が少なくて小さな音から始まる曲を録音するときに曲の頭が欠けてしまう場合は、インクリメントレベルを低くしてください。

4 録音ボタン(RECORD)を押す。



録音待機状態になり、ディスプレーの REC と「❚❚」が点灯します。

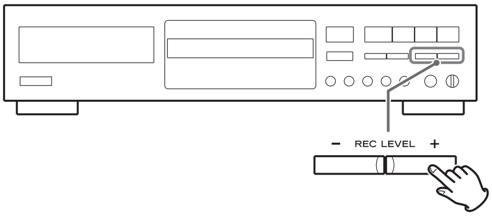
- 録音ボタン(RECORD)を押したあと、「WAITING」の表示中は他のボタンを押しても機能しません。「WAITING」が消えるまでお待ちください。2 でデジタル入力を選択した場合、「WAITING」が消えたあと、サンプリング周波数(FS 44_1K、FS 48KまたはFS 32K)がしばらく表示されます。

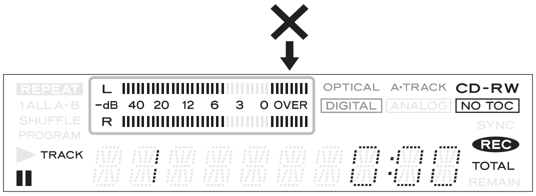
- デジタル信号が認識されずに「DIN UNLOCK」と表示された場合は、デジタル音声入力端子(DIGITAL IN)にデジタル機器を接続し、電源を入れてください。しばらくすると本機は録音待機状態になります。

- 「MONITOR」と表示され録音できない場合は、録音可能なディスクに交換してください。ディスプレーの「NO TOC」と「CD-R(またはCD-RW)」インジケーターが点灯していることを確認してから再度録音ボタン(RECORD)を押してください。

5 必要に応じて、アナログ録音レベルボタン(REC LEVEL)を押して録音レベルを調節する。

2 でアナログ音声入力を選択した場合のみ、調節が可能です。
電源をオンにしたときの録音レベルは0dBです。通常は、録音レベルを調節しなくても録音できます。





録音するソースの音を出し、音が最も大きいときにピークレベルメーターの「OVER」が点灯しないように調節してください。
「OVER」が点灯すると、音が歪んでしまいます。

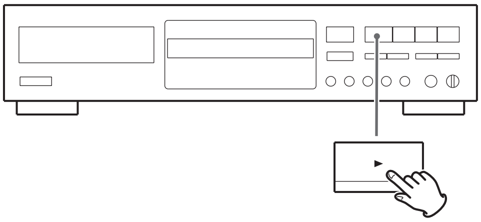
録音レベルは、以下の範囲で調節できます。

最小 −∞ ← −60dB ←(小)— 0dB —(大)→ 12dB 最大

- 電源ボタン(POWER)や停止ボタン(■)を押すと、録音レベルは0dBにリセットされます。

- 録音するソース(レコード、カセットテープ、CDなど)によっては、音量に差があります。様々なソースを適切な音量で録音するためには、ソース毎に録音レベルの調節が必要です。

6 再生ボタン(►)または一時停止ボタン(❚❚)を押す。

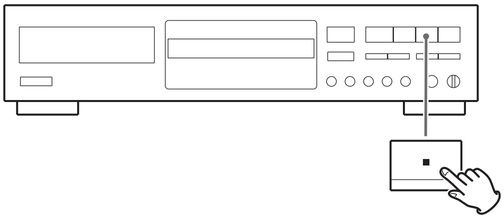


録音が開始されます。

7 録音するソースを再生する。

録音するソースの再生が終わったら、停止ボタン(■)を押して録音を停止してください。

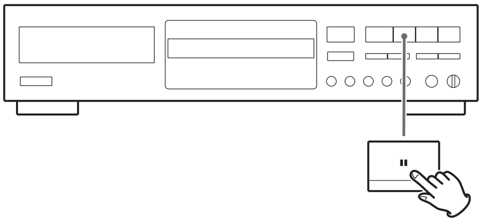
録音を停止するには



停止ボタン(■)を押すと録音が停止します。

- 録音が終わったCD-Rをファイナライズすると、本機以外のCDプレーヤーでも再生できるようになります。(27ページ)

録音を一時停止するには

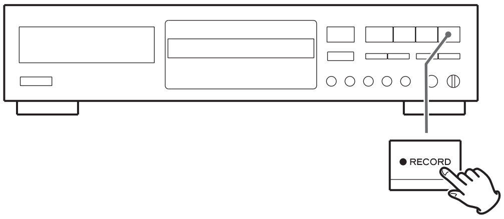


一時停止ボタン(❚❚)を押すと、「WAITING」がしばらく表示されたあと、録音が一時停止します。
再生ボタン(▶)または一時停止ボタン(❚❚)を押すと、録音を再開します。

- 「WAITING」の表示中は録音を再開できません。

- 録音を一時停止するたびに、新しい曲番が付きます。

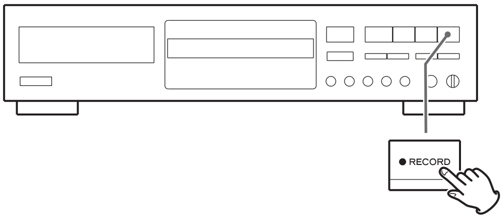
録音するソースの音を聴くには



録音可能なディスクがセットされていないときに録音ボタン(RECORD)を押すと「MONITOR」と表示され、入力ソースの音をモニターすることができます。
モニターを終了するときは、停止ボタン(■)を押してください。

シンクロ録音

録音中に手動で曲番を付けるには



録音中に録音ボタン(RECORD)を押すと、曲の途中に曲番を追加することができます。

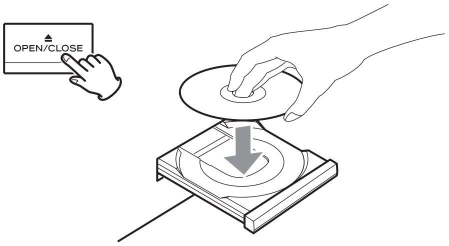
- 録音ボタン(RECORD)は、オート/マニュアルの設定(22ページ)に関係なく使えます。
- 1曲の長さは最低10秒必要です。曲の始めから10秒以内に録音ボタン(RECORD)を押しても曲番は付きません。

シンクロ録音機能とは、CDプレーヤーやMDデッキなど外部に接続した機器からアナログ信号やデジタル信号を受信すると自動的に録音を開始し、信号が止まると録音を停止する便利な機能です。

CDやMD、DATの場合は、デジタル信号で曲の初まりを検出するとシンクロ録音を開始します。また、インクリメントレベル(前ページ)で設定した値よりも小さな音(無音状態)が8秒続くとシンクロ録音を停止します。

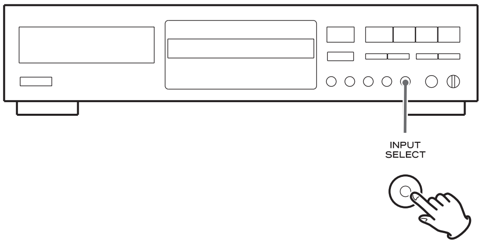
上記以外のデジタルソースおよびアナログソースの場合は、インクリメントレベル(22ページ)で設定した値よりも大きな音を検出した時点でシンクロ録音を開始します。また、インクリメントレベルで設定した値よりも小さな音(無音状態)が8秒続くと録音を停止します。

1 録音用のCD-RまたはCD-RWをセットする。



開/閉ボタン(OPEN/CLOSE ⏏)を押すとディスクトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてから、開/閉ボタン(⏏)を押してトレーを閉めてください。

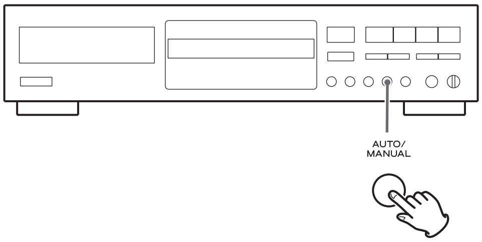
2 入力切換ボタン(INPUT SELECTOR)を押して録音するソースを選ぶ。



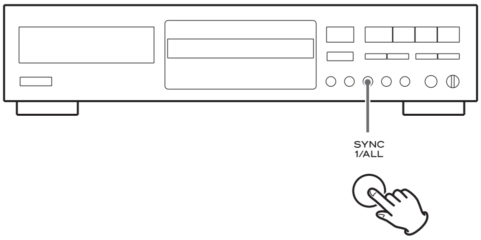
次のページに続きます ➡

シンクロ録音(続き)

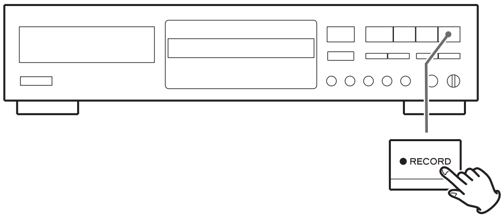
3 オート/マニュアルボタン(AUTO/MANUAL)を使って、曲番の付け方を選ぶ。



4 シンクロ録音ボタン(SYNC 1/ALL)を押してSYNCまたはSYNC ALLを選ぶ。



5 録音ボタン(RECORD)を押す。



録音待機状態になり、ディスプレーの REC と「❙❙」が点灯します。

- シンクロ録音中は再生ボタン(►)と一時停止ボタン(❙❙)は使用できません。

6 録音するソースを再生する。

- シンクロ録音中に、無音状態が8秒以上続くと、録音を停止します。そのような音楽ソースを連続で録音する場合はシンクロモードはオフにしてください。オフ時は手動で録音スタートさせてからソース側の再生を始める操作になります。
- 手動でシンクロ録音を停止するには停止ボタン(■)を押してください。
- シンクロ録音中に一時停止ボタン(❙❙)か停止ボタン(■)を押すと、シンクロ録音は解除されます。
- シンクロ録音が終了すると、シンクロ録音モードは解除されます。
- 録音中はシンクロモードの切換(1/ALL)はできません。
- SYNC ALLを選択するとオートトラックが選択されます。オート/マニュアルボタン(AUTO/MANUAL)でインクリメントレベルを選択してください。
- オート/マニュアルボタン(AUTO/MANUAL)でマニュアルを選択してからシンクロ録音をするとオートトラックがオンになり、インクリメントレベルは-60dB(アナログ音声入力は−50dB)に設定されます。シンクロ録音が終了すると、自動的にマニュアルモードに戻ります。
- デジタルソースの再生機によってはシンクロ録音機能が動かない場合があります。その場合は手動で録音を開始、停止してください。

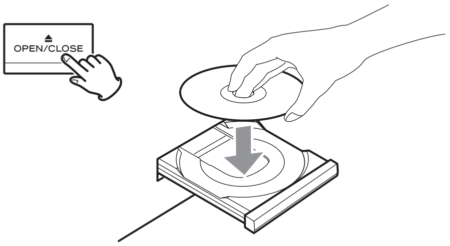
ファイナライズ

ファイナライズとは、TOC(録音したデータの情報)をディスクに記録することです。

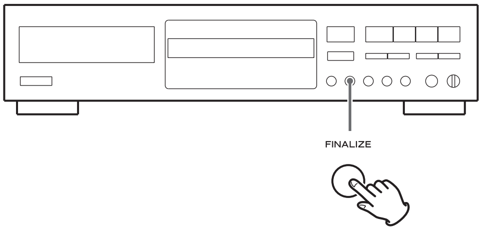
CD-Rをファイナライズすると、本機以外のCDプレーヤーで再生できるようになります。ファイナライズされたCD-Rにはそれ以上録音することができません。

CD-RWをファイナライズすると、本機以外のCD-RW対応のCDプレーヤーで再生できるようになります。ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときは、アンファイナライズしてください。(28ページ)

1 ディスクをセットする。



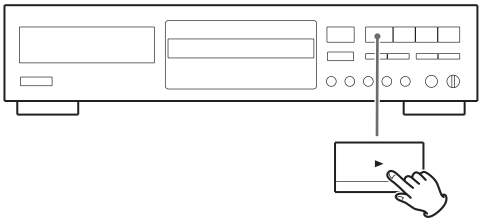
2 ファイナライズボタン(FINALIZE)を押す。



ディスプレーに「FINALIZE」と表示されます。

- 既にファイナライズ済みのディスクをセットした場合は、ボタンを押しても反応しません。
- ここで中断したい場合は停止ボタン(■)を押してください。

3 再生ボタン(►)を押す。



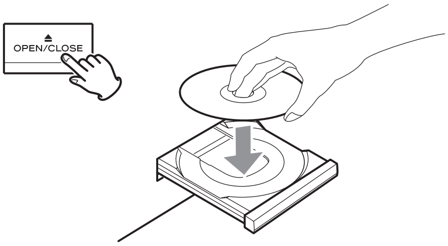
ファイナライズが開始されます。
ファイナライズが完了すると、通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

- ファイナライズ中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。
- ファイナライズ中は、ボタンを押しても機能しません。

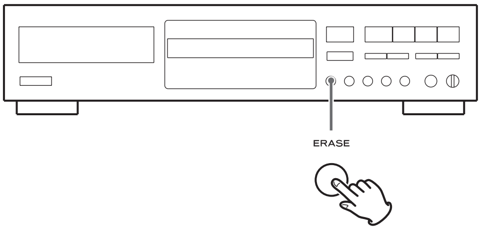
アンファイナライズ(CD-RWのみ)

アンファイナライズ(ファイナライズを取り消す作業)すると、ファイナライズ済みのCD-RWに録音したり消去することができるようになります。

1 ディスクをセットする。



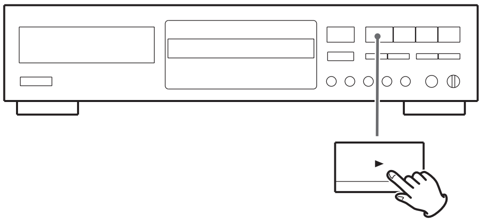
2 消去ボタン(ERASE)を押す。



ディスプレーに「UNFINALISE」と表示されます。

- ディスプレーの表示が「ERASE」の文字と最後の曲番の数字のときまたは「ERASE DISC」のときは、フィィナラィズされていないディスクですので、アンファイナライズの必要はありません。

3 再生ボタン(►)を押す。

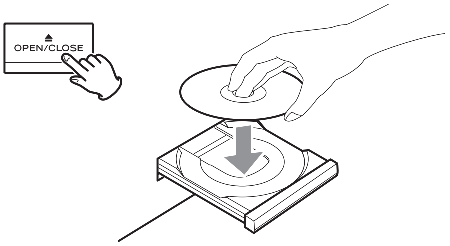


アンファイナライズが開始されます。
アンファイナライズが完了すると、通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

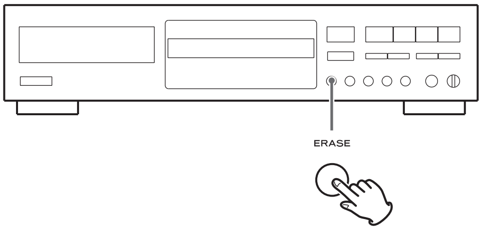
- アンファイナライズ中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。
- アンファイナライズ中は、ボタンを押しても機能しません。

最後の曲を消去する(CD-RWのみ)

1 CD-RWをセットする。



2 消去ボタン(ERASE)を押す。



ディスプレーに「ERASE」の文字と最後の曲番の数字が表示されます。

選択した局番から最後の局番までまとめて消去することもできます。そのときはスキップボタン(|◀◀ / ▶▶|)で消去を開始する局番を選択してください。(途中の曲だけ消去することはできません。)

● 消去ボタン(ERASE)を押すたびに、ディスプレーの表示が下記の順で変わります。

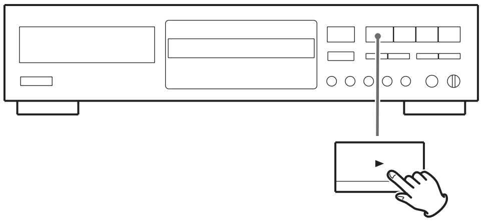
ERASE #
(# には最後の曲番の数字が入ります)
↓
ERASE DISC
↓
REFRESH
↓
総曲数と総再生時間
(→ ERASE # に戻る)

● 1曲しか録音されていない場合は「ERASE」と最後曲番は、表示されず下記の順で変わります。

ERASE DISC
↓
REFRESH
↓
総曲数と総再生時間
(→ ERASE DISC に戻る)

● ファイナライズ済みのディスクをセットした場合、「UNFINALISE」と表示されます。このままでは消去できませんのでディスクをアンファイナライズしてください。(28ページ)

3 再生ボタン(▶)を押す。



最後の曲または、選択した局番から最後の曲まで消去されます。
消去が完了すると、通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

● 消去中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。

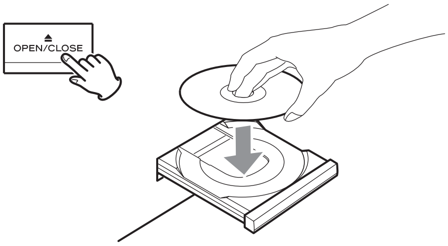
● 消去中は、ボタンを押しても機能しません。

● 消去の操作は取り消しが出来ません。ディスクの内容を充分に確認してから行ってください。

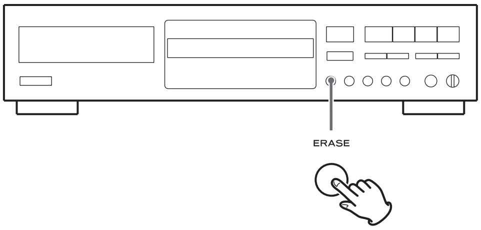
全ての曲を消去する(CD-RWのみ)

全ての曲を消去する(通常モード)

1 CD-RWをセットする。



2 消去ボタン(ERASE)2回を押す。



ディスプレーに「ERASE DISC」と表示されます。

- 消去ボタン(ERASE)を押すたびに、ディスプレーの表示が下記の順で変わります。

ERASE #
(# には最後の曲番の数字が入ります)
↓
ERASE DISC
↓
REFRESH
↓
総曲数と総再生時間
（→ ERASE # に戻る）

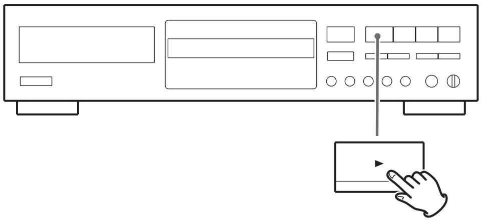
- 1曲しか録音されていない場合は「ERASE」と最後の曲番は、表示されず下記の順で変わります。

ERASE DISC
↓
REFRESH
↓
総曲数と総再生時間
（→ ERASE DISC に戻る）

- 中断したい場合は停止(■)ボタンを押してください。

- ファイナライズ済みのディスクをセットした場合、「UNFINALISE」と表示されます。このままでは消去できませんのでディスクをアンファイナライズしてください。(28ページ)

3 再生ボタン(►)を押す。



消去が始まります。
所要時間がディスプレーに表示されます。
消去が完了すると、通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

- 消去中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。

- 消去中は、ボタンを押しても機能しません。

- 消去の操作は取り消しが出来ません。ディスクの内容を充分に確認してから行ってください。

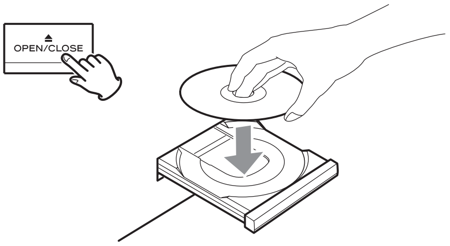
全ての曲を消去する(CD-RWのみ)　[続き]

全ての曲を消去する(リフレッシュモード)

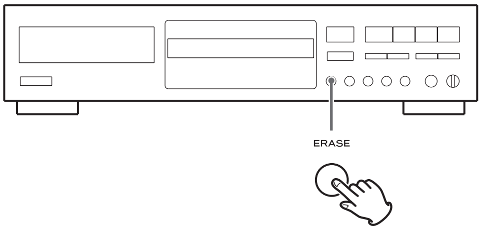
リフレッシュモードでの消去には時間がかかりますので、全曲消去には「ERASE DISC」(30ページ)をお勧めします。

録音時にエラーを起こすようになったディスクをリフレッシュモードで消去すると、エラーが発生しなくなることがあります。

1 CD-RWをセットする。



2 消去ボタン(ERASE)3回を押す。



ディスプレーに「REFRESH」と表示されます。

- 消去ボタン(ERASE)を押すたびに、ディスプレーの表示が下記の順で変わります。

ERASE #
(# には最後の曲番の数字が入ります)
↓
ERASE DISC
↓
REFRESH
↓
総曲数と総再生時間

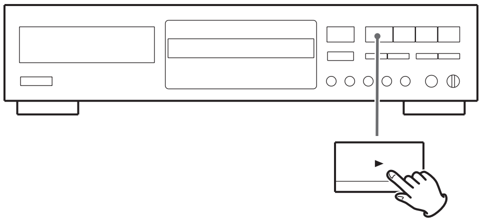
- 1曲しか録音されていない場合は「ERASE」と最後の曲番は、表示されず下記の順で変わります。

ERASE DISC
↓
REFRESH
↓
総曲数と総再生時間

- 中断したい場合は停止(■)ボタンを押してください。

- ファイナライズ済みのディスクをセットした場合、「UNFINALISE」と表示されます。このままでは消去できませんのでディスクをアンファイナライズしてください。(28ページ)

3 再生ボタン(►)を押す。



消去が始まります。
所要時間がディスプレーに表示されます。
消去が完了すると、通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

- 消去中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。

- 消去中は、ボタンを押しても機能しません。

- 消去の操作は取り消しが出来ません。ディスクの内容を充分に確認してから行ってください。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご連絡ください。

電源が入らない。

➡ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。差し込みが不完全ではないかを確認してください。

音がしない。

➡ アンプ、スピーカーとの接続を確認してください。
➡ アンプなどの音量を調節してください。

リモコンで操作できない。

➡ 本体の電源ボタン (POWER) を押して電源をオンにしてから操作してください。
➡ 電池が消耗していたら、2 本とも新しい電池に交換してください。
➡ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から 5 メートル以内の距離で、本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

テレビなどが誤動作する。

➡ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。その場合は、本機のリモコンを操作する間は他の機器の電源を切ってください。

雑音がする。

➡ テレビや電子レンジなど、電磁波を出すものからはできるだけ離して設置してください。

再生できない。

➡ ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。
➡ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
➡ 何も録音されていないディスクが入っている場合は、録音されているディスクを入れてください。
➡ ディスクの品質や録音状態によっては、CD-R/CD-RW を再生できないことがあります。

音飛びがする。

➡ 震動を与えると音飛びします。本機は安定した場所に設置してください。
➡ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
➡ 傷が付いたディスクは使わないでください。

録音できない。

➡ ファイナライズ済みの CD-R には録音できません。ディスクを交換してください。
➡ CD-R の録音残り時間が足りない場合は、ディスクを交換してください。
➡ ファイナライズ済みの CD-RW には録音できません。アンファイナライズするか、ディスクを交換してください。
➡ 録音レベルを調節してください。
➡ CD-RW の録音残り時間が足りない場合は、最後のほうの曲をいくつか消去するか、ディスクを交換してください。
➡ シンクロ録音では、インクリメントレベルより小さい音しか入ってこない場合は、録音が始まりません。(25 ページ)

CDなどから録音したときに、元のものと曲の数や長さが違う。

➡ 本機では、曲の頭をインクリメントレベルで検出するので、無音部分では曲番がつかないことがあります。(22 ページ)

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は約1分電源プラグを抜いてから操作し直してください。

結露現象について
本機を寒い戸外から暖かい室内に持ち込んだり、設置した部屋の暖房を入れた直後などには、動作部やレンズに水滴がついて正常に動作しないことがあります。この場合は、電源を入れて1〜2時間そのまま放置してください。正常に再生できるようになります。

メッセージ一覧

通常メッセージ

BLANK 0:00
何も録音されていないCD-R/CD-RWがセットされたときに表示します。

CLOSE
ディスクトレーを閉めます。

COMPLETE
ファイナライズ、アンファイナライズ、消去、リフレッシュが終了したときに表示します。

ERASE
CD-RWの最後の曲を消去します。

ERASE DISC
CD-RWの全ての曲を消去します。

FINALIZE
ファイナライズします。

FS 44_1K, FS 32KまたはFS 48K
デジタル音声入力のサンプリング周波数を表示します。

MONITOR
録音可能なディスクがセットされていないときに録音ボタン(RECORD)を押すと「MONITOR」と表示され、入力ソースの音をモニターすることができます。(23ページ)

NO DISC
ディスクがありません。ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。

NO TOC
CD-R/CD-RWがファイナライズされていません。

OPEN
ディスクトレーを開きます。

- - - -:- -
ディスクを読み込み中です。

PMA WRITE
録音した内容をディスクに記録中です。
(PMA : Program Memory Area)

READING
ディスクを読み込み中です。

REFRESH
CD-RW内のすべての曲をリフレッシュモードで消去します。

UNFINALIZE
CD-RWをアンファイナライズします。

メッセージ一覧(続き)

エラーメッセージ

CANT COPY

コピー元のディスクがデジタルコピーされています。シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)の規格によりデジタルコピーのコピーは禁止されています。(22ページ)

COM ERROR

ドライブとの通信エラーが起きました。電源ボタン(POWER)を押して電源をオフにし、約1分経ってからオンにしてください。

DAO DISC

パソコンなどで Disc At Once (DAO)の書込み方式で記録されたCD-RWディスクです。本機でアンファイナライズすることはできません。

DIN UNLOCK

デジタル音声入力が接続されていません。DIGITAL IN に接続した機器の電源を入れてください。

DISC ERROR

オーディオCD以外のCDディスク(MP3、ビデオCD、DVDなど)がディスクトレーにセットされました。本機で再生することはできません。

DISC FULL

ディスクがいっぱいです。これ以上録音できません。

PGM FULL

すでに32曲プログラムされています。これ以上はプログラムできません。

READ ERROR

再生できないディスクです。またはディスクが裏返しになっています。

REC ERROR

録音エラーが起きました。電源ボタン(POWER)を押して電源をオフにし、約1分経ってからオンにしてください。

仕　様

記録メディア	音楽用CD-R/CD-RW
入力サンプリング周波数	32kHz、44.1kHz、48kHz
録音サンプリング周波数	44.1kHz
周波数特性	20Hz～20kHz
	(再生時：±1.5dB、録再時：±2.0dB)
S/N比	90dB以上(再生時)
	90dB以上(デジタル録再時)
	80dB以上(アナログ録再時)
ダイナミックレンジ	86dB以上(再生時)
	84dB以上(録再時)
歪率	0.05%以下(再生時)
	0.05%以下(録再時)
ワウ・フラッター	測定限界以下
デジタル音声入力端子	OPTICAL(角型)×1
アナログ音声入力端子	RCA×1
アナログ音声出力端子	RCA×1
ライン入力電圧	0.5Vrms
ライン出力電圧	2.0Vrms
電源	AC100V、50-60Hz
消費電力	16W
外形寸法(幅×高さ×奥行き)	435×104×295mm
質　量	4.5kg
動作保証温度	5℃～35℃
付属品	リモコン(RC-1275)×1
	リモコン用乾電池(単3)×2本
	RCAオーディオケーブル×2本
	光ケーブル×1本
	取扱説明書(本書)×1
	簡単録音ガイド×1
	保証書×1

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。

取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス (よくお読みください)

■保証書

この製品には保証書が添付されています。保証書は、お買い上げの際に販売店が「お買上げ日・販売店名」等を記入した上でお渡し致します。記入事項及び記載内容をご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から一年です。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

33ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料： 故障した製品を正常に修復するための料金です。
測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。
部品代： 修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
その他： 製品を送るために必要な送料/梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：CDレコーダー　CD-RW890
シリアルナンバー：
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

著作権について

あなたが録音したものは、個人として愉しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

お問い合わせ先(社)私的録音補償金管理協会
Tel:03-3261-3444 Fax:03-3261-3447

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5年に1度は、販売店または弊社サービス部門に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

愛情点検

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

ティアック株式会社

〒206-8530　東京都多摩市落合1-47　http://www.teac.co.jp/

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30〜12:00/13:00〜17:00です。

AVお客様相談室

市内通話料でOK ナビダイヤル **0570-000-701**

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒206-8530　東京都多摩市落合1-47
電話：042-356-9235 / FAX：042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30〜17:00です。

ティアック修理センター

市内通話料でOK ナビダイヤル **0570-000-501**

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒358-0026　埼玉県入間市小谷田858
電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

0710･MA-1611A